

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 17日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22760472

研究課題名（和文） フェの歴史的環境保全と関連する周辺集落における段階的再定住手法に関する研究

研究課題名（英文）

研究代表者

古川 尚彬（FURUKAWA NAOAKI）

早稲田大学・総合研究機構・研究員

研究者番号：80454106

研究成果の概要（和文）：

フェ市とその近郊において実施済みの再定住事業の実績を分析した上で、今後再定住対象となっている集落の実態調査を通じて将来の再定住に対する提案を行うことを目的とした。

ケーススタディとして、阮朝歴代皇帝陵の周辺における水環境と集落生活の間にある関係性に着目し、集落の住まいと住まい方の実態と生活意向を分析した。そして世界遺産の歴代皇帝陵周辺における持続可能な集落環境整備のためのガイドラインを作成、提案した。

研究成果の概要（英文）：

This research concerns proposing the guidelines of the sustainable management of the village's dwelling environment in the peripheries of the Nguyen Emperor's Tomb, as a case study of conservation of a cultural heritage with protection zones. In this research, I clarified the relationship between living in the villages and the water system in the peripheries of the successive Nguyen Emperors' Tombs by analyzing the resettlement project outcomes as well as the actual conditions of villagers' houses, lifestyles, and their living intentions. The conservation of this relationship was presented in the proposed guidelines.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：歴史的環境、段階的再定住、住環境改善、開発途上国、適正技術、デザインデータベース、ユネスコ世界遺産、ベトナム

## 1. 研究開始当初の背景

本研究で対象とするヴェトナム社会主義共和国（以下、VN国と略）トゥアティエン・フエ省フェ市（以下、フェと称す）は、VN国最後の統一王朝「阮朝」の都があった都市で、阮朝時代に建設された王宮や歴代皇帝陵等の歴史的建造物群は、1993年にユネスコ世界

遺産に登録され、現在も保存・修復活動が継続中である。そうした歴史的建造物群の多くは、池や湖を敷地内に持ち、市内を流れる「香江」と連結していることが特徴で、自然環境との一体的保全が重要な課題である。

フェでは、ヴェトナム戦争の混乱期に王朝時代の歴史的建造物とその周辺に住みつ

いた不法占拠者たちの居住者移転が、戦後段階的に行われてきたが、今もなお多くの居住者が正式な定住許可のない状況で生活を続けている。

ユネスコ世界遺産のバッファゾーンからの居住者移転の主たる目的が文化遺産の保護である以上、居住地を移転せずに定住するオンサイト再定住を検討することは現状において大変困難である。一方で、フエの歴史的建造物群は水環境と近接しており、再定住の対象となっている居住者たちの親水居住が四半世紀の間に土着の風景を形成してきたという文化的側面も無視することはできない。一方で、フエの歴史的環境とその周辺集落には歴史的にも重要な関係性があり、その関係性は途切れることなく現在も地域の生態学的秩序の一端を担っていると考えられるが、現在は歴史的建造物を保全するための規制のみが敷かれている状況にある。

## 2. 研究の目的

ベトナム・フエ市とその近郊において実施済みの再定住事業の実績を分析した上で、今後再定住対象となっている集落の実態調査を通じて、歴史的建造物周辺で生活する集落の将来の段階的な再定住に対する提案を行うことを目的とした。

## 3. 研究の方法

ケーススタディとして、阮朝時代の歴代皇帝陵の周辺における水環境と集落生活の間にある関係性に着目し、集落の住まいと住まい方の実態と生活意向を分析した。そしてユネスコ世界遺産に登録されている歴代皇帝陵周辺における持続可能な集落環境整備のためのガイドラインを作成・提案し、その有効性と課題について検証した。

## 4. 研究成果

### (1) フエ市とその近郊で実施された再定住事業の実績に関する分析

フエ市およびトゥアティエン・フエ省によって実施された再定住事業は、文化財保護法に規定されたゾーン内にある集落の移転と船上生活者の再定住の2つの種類があることがフエ遺跡保存センターおよびフエ市都市計画部再定住事業担当者へのヒアリングから明らかになった。

前者は移転に関わる補償が十分にあることから、移転先での定住率が高い。その一方で、文化財保護法で規定されたゾーンの範囲についてはその設定根拠が明確化されていないサイトも多く、画一的なクリアランスの再考が求められているといった課題が抽出された。

また、後者については、時代とともに事業内容が大幅に見なおされているため、時期毎

の各事業に定住率に顕著な違いが見られた。しかし、定住率が著しく低い（10%に満たない）再定住事業は、1975年のベトナム戦争の終戦直後の混乱期に省政府主導で進められた事業に限られており、その他の事業については、定住率は概ね高い。

その一方で、定住率は高いものの、政府のサイトアンドサービス方式の定住で貸与された土地の余剰敷地を違法転売するような問題も見られた。

### (2) 阮朝時代の歴代皇帝陵の周辺における歴史的な水環境の実態調査

本研究では、ケーススタディとして阮朝初代～第四代皇帝の陵墓周辺における伝統的な水環境制御システムの実態把握を行った。

その結果、以下のことが明らかになった。

① 阮朝初代～第四代皇帝陵は、いずれも山や丘に囲まれた場所に配置計画され、山や丘に降った雨水を陵内に導入して溜める大きな湖を造成している。

② 4つの皇帝陵において、陵内の湖の水を排水する先には水田が作られ、伝統的に周辺集落や陵墓の警備員によって管理されてきた。

③ 上記の水田は、現在は皇帝陵周辺で生活する集落住民によって維持管理されることで、乾季の大雨や雨季の洪水時に陵内の湖からオーバーフローした雨水の遊水地として、さらには氾濫原として機能している。

### (3) 阮朝時代の歴代皇帝陵の周辺における水環境と集落生活の間にある関係性の調査

上記の歴代皇帝陵周辺における歴史的な水環境の実態を踏まえ、周辺集落の定住計画を検討するためのケーススタディとして、阮朝第三代紹治帝の陵墓（以下紹治帝陵と記す）の周辺集落による水田と皇帝陵周辺の水システムの管理の実態を調査した。その結果以下のことが明らかになった。



図1 紹治帝陵周辺集落が管理する水田の範囲

- ① 皇帝陵内にある湖から排水される水と水門を管理し、活用することで水田を耕作している実態。
- ② 1960年の集落発生以来強い地縁関係による水田の共同管理が行われている実態。
- ③ 農業従事者の減少による将来的な水田管理の担い手不足が懸念されることで、雨季や乾季の豪雨の際の水田の氾濫原としての機能の担保が難しくなっている。
- ④ 集落人口の増加に伴う家庭排水が増加し、皇帝陵内に流れ込む水路と陵内の湖の水質が悪化している。
- ⑤ 紹治帝陵周辺で計画的に作られた歴史的な水システムと連結する水田と連結部にある水門は、1965年以降に皇帝陵に隣接するクー・チャン村1へ定住した集落の住民によって管理されている実態があることから、彼らの営農活動は現代において紹治帝陵周辺の生態学的環境を支える構成要素となっている。

(4) 紹治帝陵周辺集落における集落規模の拡大と血縁に基づく世帯分離の実態

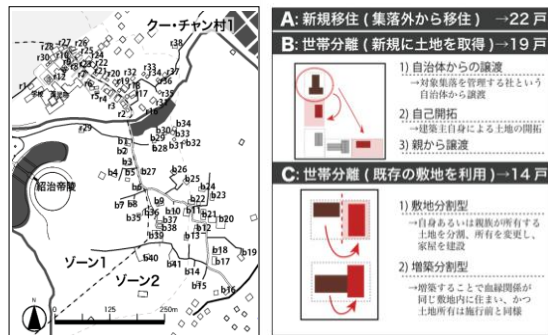


図2 調査対象プロット

図3 住宅建設用地取得パターン

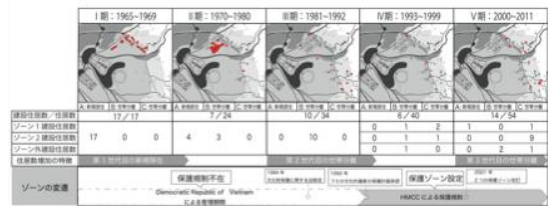


図4 集落の拡大プロセス

紹治帝陵周辺の集落では、血縁関係が大きな影響を与えて各世代の世帯分離を重ねることで、その規模が広がってきた。一方で、文化財保護ゾーンが設定されてからは、ゾーン1では敷地内で土地を確保できず、集落外への世帯分離の誘発とゾーン2への移転、ゾーン2での敷地分割につながっている。以下に、居住者インタビューと住宅調査から明らかにした紹治帝陵周辺の集落が世帯分離に伴う新規住宅建設を行うことで集落規模が拡大している実態を具体的に記す。

① 1960年の集落発生以降、世帯分離に伴う血縁近居を目指した隣地や近接地域への住宅建設が進み、集落規模が拡大してきた。

② 住宅の新築や増改築が原則禁止されている文化財保護ゾーン（ゾーン1）が設定されてからは、ゾーン2における既存の敷地の分割と増築が急速に進んでいることから、住宅のさらなる高密度化が懸念される。

(5) 対象集落の居住環境の特徴と自律的な環境整備に向けた課題抽出とデータベース化

紹治帝陵周辺集落の規模の拡大を抑え、段階的に居住環境を改善していくことを検討するために、住宅の実測調査と生活実態、生活意向に関する居住者インタビュー調査を実施した。その結果をデータベース化し分析した結果、以下のことが明らかになった。

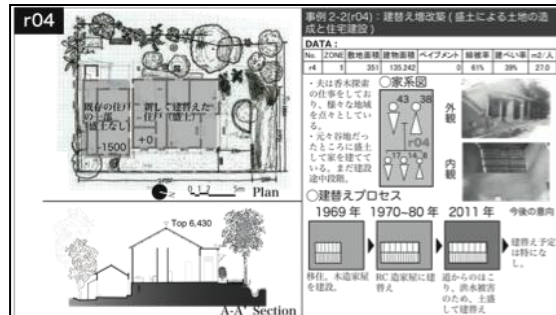
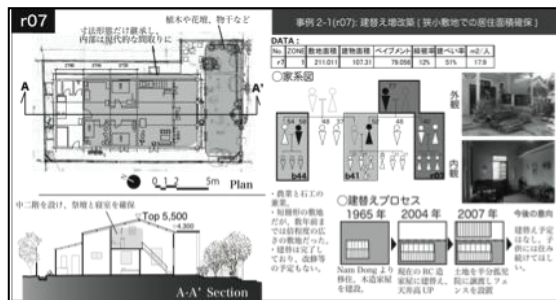
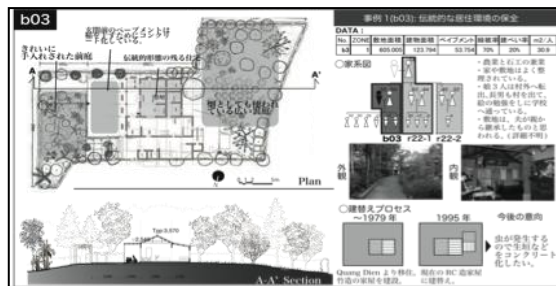


図5 対象集落の居住調査データベース

① ゾーン1において伝統的な居住環境が保全されている実態が顕著に見られた。

② 調査対象集落においては、ゾーン規制による増改築の制限があるため、住民は、狭小敷地での居住面積を確保する工夫をしている。

③ 盛土による土地の造成することで住宅建設を行なっている例も見られることから、オリジナルの地形を尊重した土地利用誘導指針が必要である。

(7) 歴代皇帝陵周辺の歴史的な地域環境を保全・再生するガイドライン

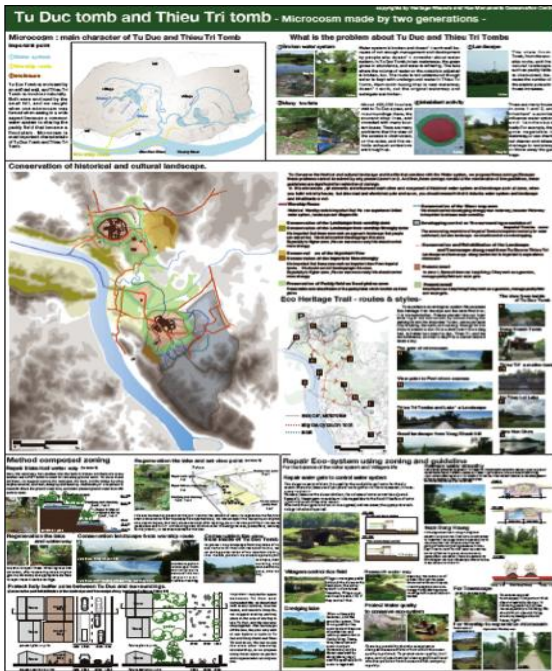


図6 歴代皇帝陵周辺の地域環境保全再生ガイドライン

本研究の最終成果として、歴代皇帝陵周辺の歴史的な地域環境を保全・再生するガイドラインを作成し、現地関連行政担当者に対して発表を行った。そこでは、オンサイトでの再定住に関する一定の理解を得るとともに、地元住民の理解と意識向上のためのさらなる実践的研究の必要性を共有することができた。

尚、本研究の成果は、UIAの国際会議（UIA 2011 Tokyo）において、歴代皇帝陵周辺の歴史的な地域環境の保全・再生を通じた新たな地域開発モデルの提案として発表した。



図7 歴代皇帝陵周辺の地域開発モデル（UIA 2011 Tokyo）

#### (8) 結論

本研究では、ケーススタディとして、阮朝時代の歴代皇帝陵の周辺における水環境と集落生活の間にある関係性を明らかにし、集

落の住まいと住まい方の実態と生活意向を分析した結果、オンサイトで段階的に定住していくための地域環境の保全・再生ガイドラインの有効性、現行法規制の元で一時的にクリアランスする再定住手法に替わるオルタナティブの可能性について考察し、さらには現地行政担当者、コミュニティ参加のワークショップにおいて検証することができた。

今後は、より詳細な集落整備のガイドラインを地元住民との協働によって作成していくことが必要であろう。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計4件）

(1) 『Presentations of the outcomes and the proposed guidelines』古川尚彬, Symposium on Conservation of Historical Environment in the area of Hue Imperial Tombs and the peripheries, 2010年8月

(2) 『On the Typological Transfiguration of A City and its Water System—A Case Study of Hue, the Shanshui City of Vietnam』古川尚彬 川原晋 佐藤滋, 18th International Seminar for Urban Form, ISUF 2011 Montreal, 2011年8月

(3) 『A Case Study of Conservation and Regeneration Of the Regional Ecological System of Imperial Tombs and the Peripheries in the Huong River Basin, Hue, Vietnam』古川尚彬 大橋清和 岡田春輝 新津瞬 茂木大樹 佐藤滋, APSA International Congress 2011, Tokyo, 2011年9月

(4) 『The Regional Development Model with Appropriate Technologies based on “The Relationship between Historical Environment and People’s Activities.” in East Asia』大橋清和 岡田春輝 新津瞬 茂木大樹 古川尚彬, UIA The 24th World Congress Tokyo, 2011年9月

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

古川 尚彬 (FURUKAWA NAOAKI)

早稲田大学・総合研究機構・招聘研究員

研究者番号：80454106

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：